

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902330		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム おおまち		
所在地	北海道旭川市大町1条3丁目14番7号 オークビル2階 (電話) 0166-51-8228		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 8月 29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10人, 非常勤 8人, 常勤換算 10人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	7階建ての ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	10,500~18,500 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	8 名		
要介護5	4 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤井病院・佐野病院・かむい歯科診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋コンクリート造りの7階建てのビルの2階部分に開設され、交通の利便性に優れた環境の中のグループホームです。毎月開催される業務推進会議では、職員が自らテーマを決めて発表会を開催して、ケアサービスの質の向上に活かす取り組みやリスクマネジメント委員会では、ヒヤリ・ハットでまだ起きていない事故のデータ収集と分析が行われ、事故の未然防止に取り組まれています。また、給食会議も定期的の実施され、食品の安全対策や食材の検討が話し合われています。各ユニットを大雪通り、旭橋通りと名付けて、居室の表札には、大雪通り 番地と表示して利用者の住所を表す取り組みも行われています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の受審は今回が初めての取り組みですが、自己評価及び外部評価の結果については、今後開催される運営推進会議に報告される予定となっています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価の取り組みについて、その実施する意義や目的を職員間で話し合い全ての職員が参加して行われています。また、自己評価に取り組む中で改善点を見出し、ケアサービスに活かす具体的な取り組みが行われています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、評価日現在6回実施されています。議題については 利用者の利用状況について 介護事故及び再発防止策の取り組みについて ホーム主催の年間行事予定について 外部評価を活かす取り組みについて 次回開催の運営推進会議の議題について
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年間2回開催される家族会との敬老会、新年会行事などでの意見交換や運営推進会議で、ホームの活動の報告や運営についての話し合いなど日常的に対応が行われています。また、季節毎に「ほほえみ」通信を発行して、行事参加や日常生活の様子など分かりやすく報告されていると共に新人職員の紹介記事も掲載されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域的にマンションや銀行、商業施設が多く地域とのつきあいが難しい面がありますが、地域の大町互助会のボランティアとの協力や町内会に加入して、地域との交流に努めています。また、運営推進会議に地区の委員に参加して働き、日常生活を通じて認知症に対する広報や啓発に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の経営理念、運営方針をもとにグループホーム独自の行動指針をつくりあげ利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の達成のために、朝礼時に理念を唱和して職員間で共有され、理念の実践にむけて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域的にマンションや銀行、商業施設が多く地域とのつきあいが難しい面がありますが、地域の町内会の大町互助会のボランティアとの協力や町内会に加入して、地域との交流に努めています。また、運営推進会議に地区の委員に参加して戴き、日常生活を通じて認知症に対する広報や啓発に取り組んでいます。		今後は、地域のボランティアを通じて、さらに地元の人々と交流する取り組みが進行中です。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の取り組みについて、その実施する意義や目的を職員間で話し合い全ての職員が参加して行われています。また、自己評価に取り組む中で改善点を見出し、ケアサービスに活かす具体的な取り組みが行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在6回開催されている。メンバーは利用者、家族会代表、地域代表、地域の介護支援専門員、ホーム長、管理者で構成され具体的に活動に取り組んでいる。</p>		<p>今後は、さらに運営推進会議で利用者と同じ食事を摂り、委員との意見交換を行うなどケアサービスに活かす具体的な取り組みが検討されています。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホーム長、管理者は、市担当者や包括支援センターとの連携の重要性については十分理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後は、行政とのさらなる連携を深めサービスの質の向上に取り組む具体的な活動が検討されている。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>季節毎に「ほほえみ」通信を発行して、行事参加や日常生活の様子など分かりやすく報告されていると共に新人職員の紹介記事も掲載されています。また、金銭管理についても毎月報告されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年間2回開催される家族会との敬老会、新年会行事などでの意見交換や運営推進会議で、ホームの活動の報告や運営についての話し合いなど日常的に対応が行われています。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的に発行される「ほほえみ」通信で新人職員の紹介記事が掲載されています。また、職員の離職や異動は少なく、利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催される業務推進会議では、職員が自らテーマを決めて発表会を開催して、ケアサービスの質の向上に活かす内部研修が行われている。また、グループホーム連絡協議会やケア研究会など外部の研修参加も奨励されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やケア研究会、ケアマネージャー会議の参加などで他施設との意見交換や交流に取り組まれている。		今後は、他施設との交換実習をすべく課題として検討されている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者及び家族の見学で職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの思いや意向を把握する取り組みや過去の大事な出来事や生活歴を把握するなど本人と共に支えあう関係構築に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。また、入浴やカラオケ、雑巾縫いなどの趣味への支援や常盤公園や嵐山散策などの外出への支援、ホーム行事への参加など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されて利用者、家族の希望や医師からの助言、カンファレンスで職員からの意見も取り入れ具体的になっている。また、センター方式が職員に徐々に浸透している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員が中心となってカンファレンスで3ヵ月毎の評価や状態変化時にはカンファレンスを随時実施し、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、職員の通院への支援や医師による定期的な往診が行われ医療機関との連携が行われている。また、訪問サービスによる理容も行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知るかかりつけ医や協力医療機関の医師との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、「指針」が明確化され本人・家族の意志が確認され、職員間で共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけが行われている。また、記録等の個人情報については法令遵守した取扱いをしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や思い、ペースを尊重して、持続可能な生活を送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、もやしのひげとりなどの料理の準備やテーブル拭きなど職員と利用者が一緒になって行っている。		今後は、職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで摂りながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行えるように職員も同じ食事を取れるように工夫されることを期待します。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。また、週2回を目安に取り組まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、掃除やおしぼりたたみ、調理の準備、カラオケなど本人の希望や意向に沿った支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、花菜里ランド、常盤公園など戸外に出かけられるよう支援している。		今後は、更に野外での食事や焼肉、散歩で気分転換ができるように職員間で話し合われている。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム長、管理者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。		危険防止や安全面の配慮で玄関は施錠しているが、利用者の希望・要望に応じていつでも外出できるようになっているので、何らかの工夫で玄関が開錠される取り組みに期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>資格を持った防火管理者が配置され、定期的に火災避難訓練や消火設備の点検が実施されている。</p>		<p>今後は、日ごろより地域の人々の協力を得られるように地域の人々が参加した救急救命講習などをホームで開催する働きかけを行う検討がされています。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士によるメニューが作成され、個別の嚥下状態などによる支援も実施されている。また、具体的な食事や水分の摂取量も把握されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は広く、観葉植物や利用者が一人になったり、談笑できるように椅子やソファが配置され明るく清潔感が漂っている。また、利用者が気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。壁には、季節に合わせた作品や行事参加の写真が飾られ生活感や季節感が採り入れられている。職員の休憩室も広くとられてストレスの解消にも工夫されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、家族の写真やテレビ、冷蔵庫などの家電製品や使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。また、家族の宿泊も可能となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。